

## 「熊丸みつ子さん講演会」のお話

22日（火）に行われた山口県私立幼稚園教育振興大会で、熊丸みつ子さんの講演会がありました。本園からも保護者の方が4人参加され、「とても良いお話だった」「涙が出てしまった」などの感想をいただきました。

私は熊丸さんの講演は今までも聴いたことがあるのですが、今回も保護者の方や我々幼稚園の教職員、大人に向けたメッセージを受け取りました。生で聞いていただくのが一番ですし、その内容を文字に起こしても伝わらないかもしれませんが、いくつかをお伝えしたいと思い紙面に載せることとしました。私がメモしたことなので、抜けがたくさんあると思いますが・・・

・子どもが 「生まれてこなければよかった」と話したり

親が 「生まなければよかった」と話したり

この二つは決して言うてはいけない言葉！

こんな言葉が出ることなく、「自分を大切に」「人を大切に」する人となってほしいと願っている。

子どもは「幸せになるために生まれてきた！」のだから。

### ・笑顔は精神安定剤

子どもは笑顔が大好き それも、ママの笑顔が一番好き

### ・イライラするのは当たり前

子どもが大人をイライラさせるのは当たり前で、成長している証

大人が子どもを見てイライラするのは・・・大人の思い通りにならないから

大人の思い通りになる子＝大人にとって都合がよい子になれば、大人は笑顔になる・・・それでよいのかな？

子どもが大人の思い通りにならないのは、大人が手間暇かけて育てるようになってきているため手間暇かけて育てられた子は、人を大切にする人になるのではないかな

イライラして・・・

「ママの気持ちがわからないの！」⇒わからないのは当たり前！ママじゃないから。

「先生の気持ちがわからないの！」⇒わからないのは当たり前！先生じゃないから。

### ・子どもは信頼している人にベタベタする！

ベタベタで愛をもらっている 大人の笑顔で愛をもらっている

ベタベタは笑顔を頂戴というサイン ママ パパ だけでは足りないときは、先生やほかの大人からも笑顔をもらおうとしているんです

⇒ 裏面に続く

・子どもにとって大切な3つの仕事 「泣く」「抱かれる」「笑顔をもらう」

この3つは、大人からたくさんの愛をもらうため

「いい子」＝「大人にとって都合がいい子」になっていませんか???

・「ほめる」と「機嫌をとる」が一緒になっていませんか？

叱ることも大切（怒るではなく）

叱るとほめるの両方が必要

叱る・・・やってはいけないことを教える

ほめる・・・良いことを教える

・子どもは身近にいる信頼できる大人を見て学ぶ

立派で完璧な親は疲れる 立派で完璧な先生は疲れる

子どもは立派で完璧な親（先生）を求めているわけではない

立派で完璧な親（先生）でなくてもいいんです

子どもは自分を見て愛してくれる親（先生）を求めている

親（先生）は、思いがあるから叱るんです

・子どもを横（ほかの子）と比べない

比べるのは過去のその子本人と比べてください

その子なりの成長プログラムがあるから、ほかの子（横）と比べる必要はありません

・親は自分の命に代えて（命を懸けて）子どもを産んだ！

人は「今、そこに生きていることが幸せであること」を忘れないように

子育てで「悩める幸せ」「叱れる幸せ」「イライラする幸せ」「笑える幸せ」

今、生きているからこそ感じられることです。生きていること自体が幸せなのです。

生の話には遠く及ばず、十分に伝えられませんが、最後に二つだけ。熊丸さんの話にあったことや私が思ったことです。

○子どもの寝顔を見て「ごめんね」と思ったとき。

⇒ 起きている子どもにしっかり自分の言葉で伝えてくださいね

○「ハグされたり（抱きしめられたり）」「頭をなでられたり」されるとうれしい。

⇒ しっかり子どもの時に、ぎゅっと抱きしめたり、頭を優しくなでたりしてくださいね  
もちろん大人もうれしいです（親やパートナーにしてあげてください、また、してもらってください）

涙あり笑いありの、あっという間の90分でした。市内の小中学校でも講演されることがあります。機会があれば、ぜひお聴きください。

著書もあります。「熊丸みつ子」さんのお名前を検索すると出てくると思います。後日、チラシが届きましたらご紹介します。